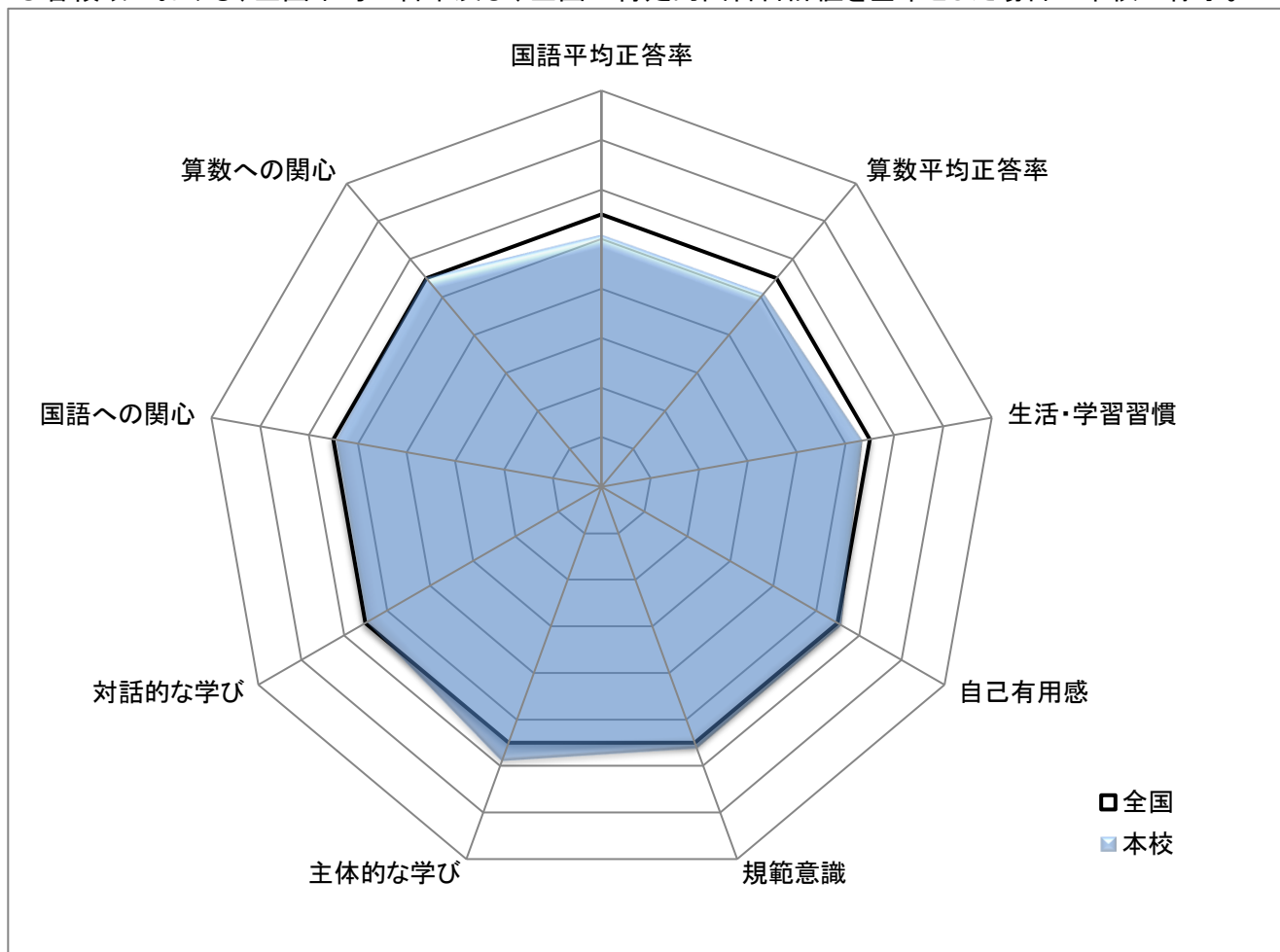


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の本校の様子。



《現状把握》

【国語】
 ◆「読むこと」が-1.7ポイントに対して、「書くこと」は、-1.5ポイントと大きく下回っており、全校を挙げて改善を急がねばならない。
 ◆「書くこと」については、特に「文章のつながり方」、「書き方の工夫」に課題がある。
 ◆選択式よりも記述式の問題の正答率が低い。
 ◆「知識・技能」では、特に「漢字の書き取り」が定着していない。
 【算数】
 ◆計算問題そのものはできていても、「立式の根拠を記述する問題」や「求め方について考えの経過を記述する問題」について正答率がかなり低いものがあった。
 ◆「目的に応じて、グラフから必要な情報を読み取ったり、考察したりする」など「データの活用」に関する問題が定着していない。

【国語】
 ◆「読むこと」については、着目すべき語句（接続語・指示語・文末表現・繰り返し使われている言葉）や文章構成の類型など読み取りの際に必要な既習内容を一覧にした「読み取りのポイント」を配り、ヒントにしなが読み進められるようにする。
 ◆「書くこと」については、上記の現状に対して、伝える目的や相手をはっきりとさせてから書くことを徹底する。また、内容については、メモやカードを使い、読み取りの学習と連動させ、段落構成を工夫して書くようにする。
 ◆選択式よりも記述式の問題の正答率が低かったことから、普段の授業の中で、学習内容について理解したことや考えたことを書く活動や、学校生活や行事等について振り返って書く活動を意図的に設定していく。
 ◆「知識・技能」では、上記の現状から、小学校の総まとめとしての活動として、個々の実態に合わせた下学年の内容にさかのぼり、東京ベーシックドリルを活用してスモールステップで復習する。
 【算数】
 ◆「計算」は、前学年の内容の基礎計算について、eライブラリを活用する等、定期的に練習をさせる機会をとる。
 ◆文章題から立式の根拠になる言葉を読み取る過程を、普段から丁寧に扱う。
 ◆演算の過程や解き方について、考えを交流させたり、全体に説明させたりする活動を普段から積み重ねる。
 ◆「図形」は、操作する時間を十分にとった上で、確実に内容を押さえる。
 ◆「表、グラフの活用」は、算数だけでなく、理科や社会、保健で取り扱う折にも意識して指導していく。
 【共通】
 ◆毎週水曜日の朝の時間「篠小タイム」は、eライブラリを活用し、個に応じた内容でのスキル学習を実施する。

《チャートの特徴》

【国語】
 ◆「平均正答率」は、全国平均から6ポイント近く下回っている。「国語科の学習への関心」への肯定的回答は、全国平均と同様であった。
 【算数】
 ◆「平均正答率」は、全国平均より5.4ポイント下回っている。「算数科の学習への関心」への肯定的回答は、全国平均と同様であったが、「よく分かるか。」との設問については、-4.5ポイントであった。
 【生活・学び方等】
 ◆ほとんどの領域で全国平均と同じである。「自己有用感・規範意識」（共に全国平均の102%）の結果には、概ね児童が地道に学校生活を送っている様子と合致している。
 ◆特に、「主体的な学び」については、全国平均の108%と少し上回っている。課題解決的な活動や、学んだことをまとめたり、伝えたりする活動が定着しているものと考えられる。
 ◆一方、「生活・学習習慣」のうち、就寝時刻については、他と比べ全国平均から9ポイントと大きく下回っている。校内の別の調査でも課題になっていることである。

《家庭・地域への働きかけ》

◆児童の学びへの関心をより高め、実態の把握とともに言葉掛けや励ましを含めて関わっていただくようにする。
 ・ホームページ「学校日記」には、普段の教科の学習活動の様子をこまめに伝える。特に、がんばりだけでなく、課題になっていることやポイントとなることについて書き添える。
 ・家庭学習では、保護者がチェックしたり、一緒に取り組んだりするような機会も設ける。
 ◆生活習慣については、学校だより、学年だより等を通して実態を伝えつつ、特に早寝早起きの習慣の大切さについて協力を求めていく。
 ・「保健だより」での各学年ごとの実態調査の結果と課題について報告を通して、1月当初の「健康振り返り週間」をきっかけにしたよりよい生活習慣の定着へとつなげていく。
 ・全校を挙げて、東京大学の「睡眠検診」の取組と連携し、科学的専門的な観点から啓発を図る。